

社会資本総合整備計画 事後評価委員会

日時：平成29年1月26日（木）午後2時
場所：豊田市役所 東31会議室

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 出席者の紹介
- 4 制度の概要・設立趣旨説明
- 5 委員会規約（案）説明
- 6 委員長選出・挨拶
- 7 議題 事後評価調書の説明
 - (1) 環境都市にふさわしい鉄道駅などを中心としたコンパクトなまちづくり
 - (2) 環境にやさしく利便性の高い交通体系の構築
～自動車交通と公共交通が共存する交通の最適化～
 - (3) 安全で快適な暮らしを支える生活道路の整備
 - (4) 良好な水循環の再生・保全と安全・安心なサービスの提供
 - (5) 計画的な施設の改築更新による安全・安心なサービスの提供
- 8 閉会

【配布資料】

議事次第

資料1 出席者名簿

資料2 配席表

資料3 制度の概要・設立趣旨

資料4 委員会規約(案)

資料5～9 事後評価調書及び社会資本総合整備計画

(事務局) 豊田市 建設部 建設企画課
都市整備部 区画整理1課
上下水道局 下水道建設課

社会資本総合整備計画事後評価委員会 出席者名簿

所 属	職氏名	備 考
大同大学工学部建築学科土木・環境専攻	教 授 嶋田 喜昭	学識経験者 専門分野：都市交通計画
豊田工業高等専門学校環境都市工学科	教 授 野田 宏治	学識経験者 専門分野：交通工学
豊田工業高等専門学校環境都市工学科	准教授 松本 嘉孝	学識経験者 専門分野：水質工学

※順不同

▼事務局・関係課 (◎：事務局)

◎豊田市建設部 建設企画課	課 長 倉口 敦	
◎豊田市都市整備部 区画整理1課	課 長 塚本 直樹	
◎豊田市上下水道局 下水道建設課	課 長 杉本 尚久	
愛知県豊田加茂建設事務所 道路整備課	課 長 岩田 尚也	欠席
豊田市建設部 土木課	担当長 鈴木 桂也	
豊田市建設部 街路課	担当長 須藤 淳姿	
豊田市建設部 地域建設課	担当長 長嶋 紀之	
豊田市建設部 道路予防保全課	担当長 石掛 晴孝	
豊田市建設部 河川課	担当長 市村 哲	
豊田市都市整備部 都市整備課	担当長 初田 大成	
豊田市都市整備部 交通政策課	副主幹 中根 章	
豊田市都市整備部 区画整理2課	担当長 糟谷 昇	
豊田市都市整備部 土橋区画整理事務所	担当長 大林 久行	
豊田市都市整備部 寺部区画整理事務所	担当長 寺下 泰之	
豊田市都市整備部 花園区画整理事務所	担当長 吉野 奈美	
豊田市都市整備部 都市再開発課	担当長 小武家康希	
豊田市都市整備部 公園課	担当長 内田 良平	
豊田市上下水道局 下水道施設課	担当長 加藤ひろみ	
豊田市社会部 防災対策課	担当長 山岡 雅史	
豊田市社会部 旭支所	担当長 高島 圭太	
豊田市企画政策部 都市計画課	担当長 下川 啓輔	
豊田市企画政策部環境モデル都市推進課	副課長 粕谷 忠弘	
豊田市子ども部 保育課	担当長 後藤 充宏	
豊田市学校教育部 学校づくり推進課	担当長 伊地知 毅	

※順不同

議題7（4）における主な意見

計画名：良好な水循環の再生・保全と安全・安心なサービスの提供

【質疑応答】

(Q) 下水道処理人口普及率が全国の77.8%、愛知県の76.5%と比較して低めに推移しているが、今後の下水道整備についてどのような計画を持っているのか。

(A) 本市の大部分は流域下水道で処理しており、矢作川処理区は西尾市、境川処理区は刈谷市に処理場を有している。本市は両処理区の最上流に位置しており、流域下水道の到達が他市町村に比べ遅かったことが、普及が遅れている要因と考えられる。今後は10年程度を目標に下水処理施設として1,200haの整備を予定している。

(Q) 指標1-1「下水熱利用のための施設整備率」が92%となっているが、熱輸送管は運用されて初めて効果が現れるため、実績値としては0%ではないか。また、指標の実績値の大部分が割合で示されており、箇所や距離が不明である。今後、「定量的」な指標の立て方を検討すべき。

(A) 指標1-1は整備率であるため、整備延長の達成割合でいうと92%である。定量的な指標の立て方については今後検討していく。

【意見】

- ・ (仮称)足助浄化センターは、循環式硝化脱窒型膜分離活性汚泥法として、栄養塩類としての窒素についての取組みをされており、下流側を含めた水循環という視点でも期待できる。
- ・ 主要河川のBOD濃度は減少しているが、昨年度の逢妻女川のBOD濃度は環境基準を超えており、問題であると認識している。今後、逢妻女川流域で下水道整備の予定もであると聞いており、水質改善も期待できる。

【計画名称】

良好な水循環の再生・保全と安全・安心なサービスの提供

計画概要

◆計画期間 平成23年度～平成27年度

◆計画の目標

下水道整備、都市の浸水対策及びストックマネジメントを行い、安全・安心、快適な暮らしを実現し、良好な環境を創造する。

◆計画の成果目標（定量的指標）

※H25より防災・安全交付金事業へ移行(地震対策事業、長寿命化対策事業、浸水対策事業)

指標③：重要な管路の地震対策実施率

現況値(H21末) 4% ⇒ 目標値 (H24末) 60%

指標④：下水道管路における長寿命化対策実施率

現況値(H21末) 0% ⇒ 目標値 (H24末) 6%

指標⑥：マンホール蓋の改築・更新実施率

現況値(H21末) 0% ⇒ 目標値 (H24末) 33%

指標⑦：マンホールトイレの設置率

現況値(H21末) 3% ⇒ 目標値 (H24末) 9%

指標⑩：雨水貯留施設等設置基数率

現況値(H23) 0% ⇒ 目標値 (H24末) 40%

◆計画の成果目標（定量的指標）

指標①：下水道処理人口普及率

現況値(H21末) 65% ⇒ 目標値 (H27末) 69%

指標②：(仮称)足助浄化センターの完成率

現況値(H21末) 0% ⇒ 目標値 (H27末) 100%

指標⑤：鞍ヶ池浄化センターの地震対策実施率

現況値(H21末) 0% ⇒ 目標値 (H27末) 100%

指標⑧：梅坪ポンプ場の地震対策実施率

現況値(H21末) 0% ⇒ 目標値 (H27末) 100%

指標⑨：中部ポンプ場における長寿命化計画策定率

現況値(H21末) 0% ⇒ 目標値 (H27末) 100%

指標⑪：下水熱利用のための施設整備率

現況値(H27) 0% ⇒ 目標値 (H27末) 100%

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
【A 基幹事業】	7,149百万円		
未普及解消	5,700百万円	矢作川処理区を始め3処理区の下水道整備を行い、計画通りの進捗となった。	100%
地震対策	897百万円	下水道施設の地震対策工事を実施し、計画通りの進捗となった。	100%
長寿命化対策	496百万円	下水道施設の長寿命化対策工事を実施し、計画通りの進捗となった。	100%
浸水対策	51百万円	雨水貯留浸透施設設置補助について、計画通りの進捗となった。	100%
未利用エネルギー活用	5百万円	高齢者福祉施設の給湯システムに下水熱の活用を行うための熱輸送管の整備は、社会福祉法人との調整に期間を要して、計画を下回った。	92%
B 関連社会資本整備事業	0 百万円	—	—%
C 効果促進事業	343 百万円	基幹事業（未普及解消）と一体的に実施し、計画どおりの進捗となった。	100 %
合 計	7,493 百万円		

※事業費は実績額

※進捗率（%）は各事業の計画に対する実施割合 【整備量ベース】

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

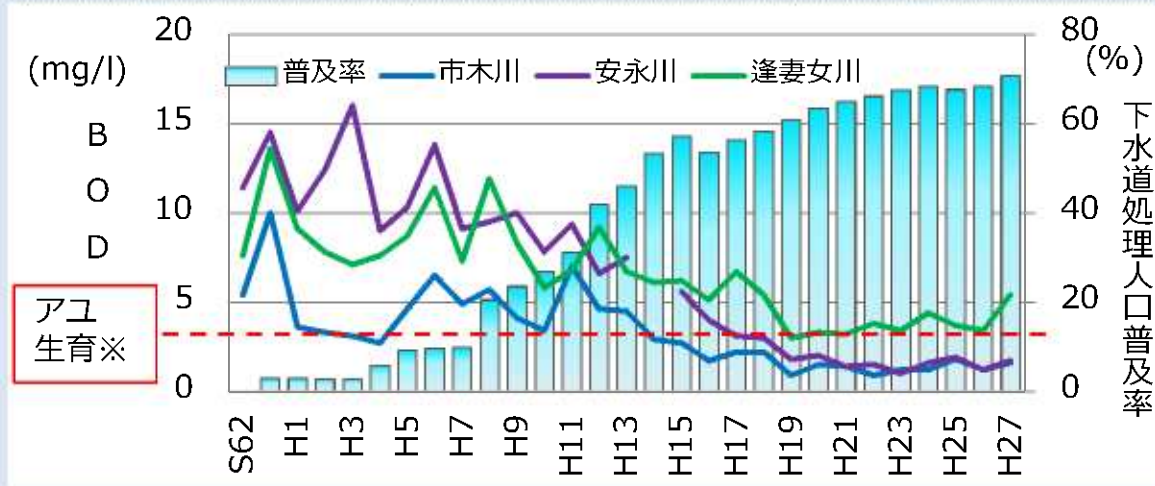
I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

【基幹事業・効果促進事業（未普及解消）】

- 2-A-1 2-C-1 管路整備（矢作川処理区）
- 2-A-2 2-C-2 管路整備（境川処理区）
- 2-A-3 2-C-3 管路整備（足助処理区）

■事業効果

・下水道整備区域内において約70kmの下水道整備を行った。下水道の普及促進とともに、豊田市内の主要河川の水質は改善され、**良好な水環境の保全に下水道が寄与している。**



＜主要な河川と下水道人口普及率の推移＞

※ アユが生育できる水質の目安はBOD3mg/L以下とされている。

着手前



完了



◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

【基幹事業（未普及解消）】 2-A-2 （仮称）足助浄化センター

■事業効果

- ・本事業では、紅葉の名称「香嵐溪」などを含む96haの下水道整備区域の最下流部に汚水処理場を建設した。
- ・今後、下水道整備区域内の家屋の接続や処理場の稼働により、**巴川及び足助川の水質改善**（特に観光シーズン）が期待できる。

あすけ水の館(完成形)



■事業概要

排除方式：分流式
計画区域面積：96ha
計划定住人口：2,300人
計画観光人口：30,000人（日最大）
処理場敷地面積：5,938㎡
処理能力：1,800㎡/日
処理方式：循環式硝化脱窒型
膜分離活性汚泥法
供用開始：平成28年4月



◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

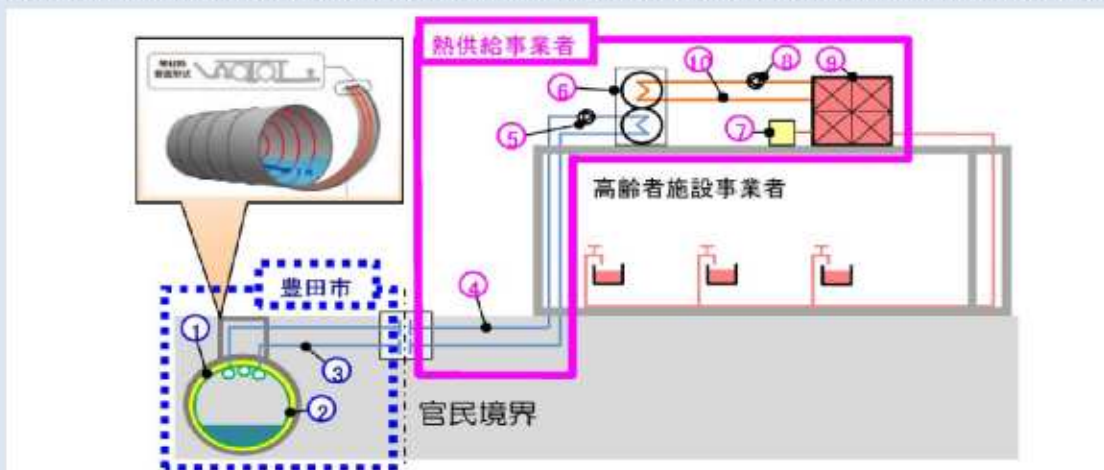
I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

【未利用エネルギー活用】

2-A-16 下水熱利用のための施設整備

■ 事業効果

下水の水温特性を利用し、その温度差エネルギーを高齢者福祉施設の給湯システムに利用するための整備。**資源の有効化に加え、CO2の削減も期待できる。**



事業者区分	事業内容	事業区分	備考
豊田市	① 更生管	他事業(長寿命化)	H27実施済み
	② 下水熱回収管	本事業	H27実施済み
	③ 下水管内及び道路内下水熱輸送管	本事業	
熱供給事業者	④ 下水熱輸送管(民地)		
	⑤ 熱源水循環ポンプ		
	⑥ 水熱源ヒートポンプ		
	⑦ ガス給湯器(バックアップ用)	他事業(再開発事業)	
	⑧ 温水循環ポンプ		
	⑨ 貯湯槽		
	⑩ 機器接続配管		

着手前



完了



II 定量的指標の達成状況

指標①（下水道処理人口普及率）

当初現況値	65%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り下水道面整備工事を実施し、目標値を達成することができた。
最終目標値	69%		
最終実績値	70.7%		

※下水道を利用できる人口（人）／総人口（人）
 （当初現況値）275,090（人）／422,960（人）＝65%
 （最終実績値）299,001（人）／422,947（人）＝70.7%

指標②（(仮称)足助浄化センターの完成率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り浄化センターの建設を行い、目標値を達成することができた。
最終目標値	100%		
最終実績値	100%		

※建設済みの施設数（箇所）／建設すべき施設数（箇所）
 （当初現況値）0（箇所）／1（箇所）＝0%
 （最終実績値）1（箇所）／1（箇所）＝100%

指標③（重要な管路の地震対策実施率）

当初現況値	4%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り重要な管路（污水）の耐震対策を行い、目標値を達成することができた。
最終目標値	60%		
最終実績値	60%		

※重要な管路のうち耐震対策が行われている延長（km）／重要な管路の延長（km）
 （当初現況値）0.112（km）／3.0794（km）＝4%
 （最終実績値）1.854（km）／3.0794（km）＝60%

II 定量的指標の達成状況

指標④（下水道管路における長寿命化対策実施率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り下水道管路（汚水）の長寿命化対策を行い、目標値を達成することができた。
最終目標値	6%		
最終実績値	6%		

※長寿命化対策済みの管路延長（km）／長寿命化対策すべき管路延長（km）

（当初現況値）0（km）／94.075（km）=0%

（最終実績値）5.229（km）／94.075（km）=6%

指標⑤（鞍ヶ池浄化センターの地震対策実施率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り浄化センターの耐震対策を実施し、目標値を達成することができた。
最終目標値	100%		
最終実績値	100%		

※耐震化が行われている施設数（箇所）／耐震化すべき施設数（箇所）

（当初現況値）0（箇所）／1（箇所）=0%

（最終実績値）1（箇所）／1（箇所）=100%

指標⑥（マンホール蓋の改築・更新実施率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通りマンホール蓋の改築更新を実施し、目標値を達成することができた。
最終目標値	33%		
最終実績値	33%		

※改築・更新が行われているマンホール蓋数（箇所）／改築・更新すべきマンホール蓋数（箇所）

（当初現況値）0（箇所）／75（箇所）=0%

（最終実績値）25（箇所）／75（箇所）=33%

II 定量的指標の達成状況

指標⑦（マンホールトイレ設置率）

当初現況値	3%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通りマンホールトイレを設置し、目標値を達成することができた。
最終目標値	9%		
最終実績値	9%		

※マンホールトイレの設置済数（箇所）／マンホールトイレ設置計画数（箇所）

（当初現況値）1（箇所）／35（箇所）＝3%

（最終実績値）3（箇所）／35（箇所）＝9%

指標⑧（梅坪ポンプ場の地震対策実施率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通りポンプ場の地震対策を実施し、目標値を達成することができた。
最終目標値	100%		
最終実績値	100%		

※耐震化が行われている施設数（箇所）／耐震化すべき施設数（箇所）

（当初現況値）0（箇所）／1（箇所）＝0%

（最終実績値）1（箇所）／1（箇所）＝100%

指標⑨（中部ポンプ場における長寿命化計画策定率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通りポンプ場の長寿命化計画を作成し、目標値を達成することができた。
最終目標値	100%		
最終実績値	100%		

※長寿命化計画を策定済みの施設数（箇所）／長寿命化計画を策定すべき施設数（箇所）

（当初現況値）0（箇所）／1（箇所）＝0%

（最終実績値）1（箇所）／1（箇所）＝100%

II 定量的指標の達成状況

指標⑩（雨水貯留施設等設置基数率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り雨水貯留施設等の設置者へ補助を行い、目標値を達成することができた。
最終目標値	40%		
最終実績値	40%		

※雨水貯留施設等の設置済数（基）／雨水貯留施設等の設置計画数（基）

（当初現況値）0（基）／225（基）＝0%

（最終実績値）90（基）／225（基）＝40%

指標⑪（下水熱利用のための施設整備率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	本事業は豊田市駅前通り北地区における市街地再開発事業で建設する高齢者福祉施設の給湯システムに下水熱の活用を行うための熱輸送管の整備を行うものであるが、社会福祉法人との調整に時間を要して、当初計画通りに事業が進まなかった。
最終目標値	100%		
最終実績値	92%		

※整備済みの施設延長（m）／整備すべき施設延長（m）

（当初現況値）0（m）／190（m）＝0%

（最終実績値）175（m）／190（m）＝92%

◆今後の方針

- ・本社会資本整備計画については円滑に事業が進んでおり、目標を概ね達成することができた。継続事業については、平成28年度からの社会資本総合整備計画に位置付け、引き続き事業を実施する。
- ・下水熱利用施設の整備の進捗率は約9割で未完了となった。本事業については、平成28年度からの社会資本総合整備計画に位置付け、平成28年度完了を目指す。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価委員会を開催し、評価を実施。
事後評価の実施時期	平成29年1月
公表の方法	豊田市のホームページに掲載